

Reference

参考資料

R1	発音と発音記号	P508
R2	音節について	P512
R3	主な前置詞	P512
R4	群前置詞と二重前置詞	P513
R5	代名詞の格	P514
R6	可算名詞と間違いやすい不可算名詞	P514
R7	数値の形容詞(句)と可算・不可算名詞	P515
R8	三単現 / 複数形の s の付け方	P516
R9	形容詞と同形の副詞	P516
R10	動詞の ing 形の作り方	P517
R11	主な状態動詞	P517
R12	規則動詞の -ed の付け方と発音	P518
R13	不規則動詞の活用	P518
R14	自動詞と他動詞の区別	P521
R15	第2文型「…になる」の動詞と補語	P522
R16	「他動詞+副詞」の例	P523
R17	確信の程度を示す副詞	P523
R18	活用に注意すべき不規則動詞	P524
R19	米語と英語の綴りの違い	P524
R20	主な名詞節	P525
R21	目的語に that 節をとる主な動詞	P525
R22	「前置詞+関係代名詞」の例	P526
R23	副詞を置く位置	P526
R24	形容詞と副詞の比較変化	P529
R25	基数と序数の表し方	P530
R26	分数の表し方	P532

R1 発音と発音記号 (<http://basic.linkage-club.com/hatuonkigo>)

日本語のアイウエオに近い音で発音する音を「母音」と呼び、それ以外の音を「子音」と呼びます。英単語は子音と母音が組み合わさってできています。母音は20個、子音は24個あります。

① 母音の発音

【ʌ】 短く「ア」と言う。日本語の「ア」とほぼ同じ。

gun study tunnel

【æ】 「ア」と「エ」を同時に言う感じで「ア」と言う。

animal cat bag

【ɑ:] 口を大きく開けて「アー」と言う。

arm father heart

【ə:] 唇を横に引き、「ア」と「ウ」を同時に言う感じで「アー」と言う。

earth girl work

【ə] [ə:] よりも少し広く口を開けて短く「ア」と言う。

success lemon famous

【ai】 口を大きく開けて「アイ」と言う。

eye fly like

【au】 口を大きく開けて「アウ」と言う。「ウ」を発音する時には唇を丸くして前に突き出す。

cow tower sound

【i:] 唇を横に引いて「イー」と言う。

me eat speak

【i】 「エ」と「イ」を同時に言う感じで「イ」と言う。

English city picture

【iə】 [i] と [ə] を一緒にして「イア」という感じで言う。

ear here idea

【u】 唇を丸くして前に突き出し、短く「ウ」と言う。

put book woman

【u:】 [u] を発音するのと同じ要領で「ウー」と伸ばして言う。

two school soup

【uə】 丸めて突き出した唇を開いて「ウア」と言う。

poor sure tour

【e】 口を縦に比較的大きく開けて「エ」と言う。

egg red head

【ei】 [e] と [i] を一緒にして「エイ」と言う。[e] を [i] よりも強く長く言う。

eight cake rain

【eə】 [e] と [ə] を一緒にして「エア」という感じで言う。

bear chair careful

【ɔ】 口を大きく開け、唇を丸くして前に突き出し、短く「オ」と言う。

dog soft wash

【ɔ:】 [ɔ] を発音するのと同じ要領で「オー」と伸ばして言う。

ball daughter walk

【ɔi】 口を大きく開けて「オイ」と言う。「イ」を発音する時には唇を丸くして前に突き出す。

boy oil voice

【ou】 口を大きく開けて「オウ」と言う。「ウ」を発音する時には唇を丸くして前に突き出す。

home old toast

② 子音の発音

【p】 上下の唇を閉じ、息が出るのを止めた後、急に唇を開けてはじくように「息」を出す。

happy help park

【b】 [p]を発音するのと同じ要領で「声」を出す。

about baby job

【t】 舌の先を上歯と歯茎の境目につけて息を止め、急に舌を離すと同時に「息」を出す。

butter hit telephone

【d】 [t]を発音するのと同じ要領で「声」を出す。

door ladder old

【k】 「クッ」と発音する要領で「息」を出す。

coffee socks talk

【g】 [k]を発音するのと同じ要領で「声」を出す。

girl again pig

【f】 上の歯を下唇に軽く当てて、その隙間から「息」を出す。

flower leaf laugh

【v】 [f]を発音するのと同じ要領で「声」を出す。

have river voice

【θ】 舌を軽く噛んで、その隙間から「息」を出す。

think something tooth

【ð】 [θ]を発音するのと同じ要領で「声」を出す。

mother that within

【s】舌の先を歯茎に近づけて、その隙間から「息」を出す。

small famous ice

【z】[s]を発音するのと同じ要領で「声」を出す。

zoo busy season

【ʃ】唇を丸くして前に突き出し、息だけで「シュ」と言う。

ship ocean station

【ʒ】[ʃ]を発音するのと同じ要領で「声」を出す。

usual garage pleasure

【tʃ】唇を丸くして前に突き出し、息だけで「チュ」と言う。

church future teach

【dʒ】[ʃ]を発音するのと同じ要領で「声」を出す。

Japan judge page

【h】腹の底から「ハー」と「息」を出す（声は出さない）。

hand heat behind

【l】舌の先を上歯茎につけて舌の両側から「声」を出す。

ball color letter

【r】舌の先を内側に巻いて上の歯茎に近づけ、「声」を摩擦して出す。

rocket carry roof

【w】唇を丸くして前に突き出し、摩擦音で「ウ」に近い「声」を出す。

watch quick sweet

【j】舌の中央を上顎の中央に近づけ、その隙間から「声」をきしらせて出す。

you beauty new

【m】唇を閉じて、鼻を通して「ム」と「声」を出す。

member farm some

【n】口を軽く開き、舌の先を上歯と歯茎の境目につけて「ン」と「声」を出す。

nose under lesson

【ŋ】舌の奥の部分を上顎の奥につけて口から声や息が出るのを止め、鼻を通して「声」を出す。

English thank song

R2 音節について

発音上切れ目なく一気に発音され、ひとまとまりと認識される単音を「音節」と呼びます。一つの音節は子音と母音1つの組み合わせによってできあがります。例えば、oldは1音節、pencilは(penとcilで)2音節です。英語辞書の見出し語では2音節以上の単語は音節の区切りに「・」が挿入され「pen・cil」「beau・ti・ful」のように示されています。

音節は比較級や最上級を作る際の目安にします。また、行末で1つの単語を途中改行する場合には、音節の位置にハイフン(-)を入れて次の行に送ります。

R3 主な前置詞

前置詞は主に「名詞」に相当することば(=名詞、代名詞、動名詞、名詞節)と結びついて「副詞句」や「形容詞句」を作ったり、「他動詞の働きをする動詞句の一部」になります。以下は主な前置詞とその中心的な意味です。

about	(…について)	above	(…より上に)	across	(…を横切って)
along	(…に沿って)	among	(…の間で)	after	(…の後に)
around	(…の周りに)	as	(…として)	at	(…に)
before	(…の前に)	behind	(…の背後に)	below	(…より下に)
beside	(…の隣に)	between	(…の間に)	beyond	(…を超えて)

by	(…によって)	down	(…の下に)	for	(…に向かって)
from	(…から)	in	(…の中に)	into	(…の中へ)
like	(…のように)	near	(…の近くに)	of	(…の、…を)
off	(…から離れて)	on	(…の上に)	over	(…を覆って)
through	(…を通り抜けて)	toward	(…の方向へ)	to	(…へ至って)
under	(…の下に)	up	(…の上へ)	with	(…と共に)
within	(…以内に)	without	(…なしに)		

* around は ((英)) では round と言うことがあります。

* 前置詞の大半は副詞としても用いられます。例えば、in は「…の中に」という前置詞と「中に」という副詞の両方で用います。

* 最もよく用いられる前置詞は of, in, to, for, with, on, at, by, from です。

* 前置詞の感覚を磨き、前置詞を使った表現能力を最大限に高めたい方は、「30語超発想英会話」(ホームページ: <http://dtp334.wixsite.com/30go> 電子書籍の URL: <http://www.shinanobook.com/genre/book/1056>) で学習してください。

R4 群前置詞と二重前置詞

① 主な群前置詞 (= 「2語以上」から成る前置詞)

according to	(…によると)	ahead of	(…の前方に)
as for	(…に関しては)	as to	(…に関して)
because of	(…が理由で)	due to	(…が原因で)
instead of	(…の代わりに)	next to	(…の隣に)
out of	(…から、…の外に)	owing to	(…が理由で)
prior to	(…以前に)	thanks to	(…のおかげで)
as well as	(…と同様に)	in front of	(…の前に)
in addition to	(…に加えて)	in spite of	(…にもかかわらず)

② 主な二重前置詞 (= 「2つの前置詞」から成る前置詞)

from under	(…の下から)	from behind	(…の背後から)
from among	(…の中から)	from within	(…の中から)
until [till] after	(…の後までずっと)	since before	(…の前からずっと)
in between	(…の中間 [合間] に)	across from	(…の向かい側に)

R5 代名詞の格

主格	所有格	目的格	独立所有格	再帰代名詞
…は、…が	…の	…を、…に	…のもの	…自身(で)
I	my	me	mine	myself
we	our	us	ours	ourselves
you	your	you	yours	yourself
he	his	him	his	himself
she	her	her	hers	herself
it	its	it	---	itself
they	their	them	theirs	themselves
one	one's	one	---	oneself
who	whose	who(m)	whose	---
Mary	Mary's	Mary	Mary's	---

- * 「独立所有格」は「所有代名詞」とも言います。
- * 本書の単語欄では「再帰代名詞」を総称として oneself で表しています。
- * you (あなた、あなた達) の「再帰代名詞」は単数なら yourself (あなた自身) ですが、複数場合は yourselves (あなた達自身) になります。
- * it の所有格は its であって it's (it is の短縮形) ではありません。
- * who の「目的格」は正式には whom ですが、しばしば who を用います。

R6 可算名詞と不可算名詞の区別

英語では、名詞を数えるもの(=可算名詞)と数えないもの(=不可算名詞)に分けて考えます。「**可算名詞**」は、決まった形や区切り(=始めと終わり)がある名詞です。例えば、dog には決まった形があり、hour にも区切りがあるので、1つ、2つと認識することができます。他方、「**不可算名詞**」は、決まった形や区切りがなく、1つ、2つと認識できない名詞です。milk、pork のような食材や、music、love のような概念的な名詞がこれに当たります。また、sun、Japan のように複数存在しないものも数えられないので不可算名詞です。glass や paper は、「ガラス」「紙」という材料の意味では決まった形がないので不可算名詞ですが、「グラス、コップ」「新聞、書類」という意味では決まった形が(ネイティブの

共通認識として)あるので可算名詞です。次の表は、「可算名詞と間違いやすい不可算名詞」の例です。不可算名詞は、a、anをつけたり、複数形にしたり、two、many、few、everyで修飾したりできないので注意してください(adviseを例に取ると、an advice、advices、many advices、every adviceとはできません)。

advice (助言)	information (情報)	news (ニュース)
work (作業)	homework (宿題)	progress (進歩)
furniture (家具)	equipment (装置)	food (食べ物)
meat (肉)	bread (パン)	coffee (コーヒー)
beer (ビール)	paper (紙)	wood (木材)

* water、coffee、beerは、飲食店で「水2つ」「コーヒー3つ」「ビール1本」のように言う場合には、可算名詞(two waters、three coffees、a beer)として扱います。

R7 数量の形容詞(句)と可算名詞・不可算名詞

		可算名詞	不可算名詞
many	(たくさんの)	○	×
much	(たくさんの)	×	○
a lot of	(たくさんの)	○	○
lots of	(たくさんの)	○	○
plenty of	(豊富な)	○	○
a few	(少数の)	○	×
few	(ほとんどない)	○	×
a little	(少量の)	×	○
little	(ほとんどない)	×	○
some	(いくらかの)	○	○
any	(いかなる)	○	○
hardly any	(ほとんどない)	○	○
a number of	(いくつかの)	○	×
no	(無[ゼロ]の)	○	○
every	(全ての)	○	×
all	(全ての)	○	○

R8 三単現 / 複数形の s の付け方

主語が三人称・単数で時制が現在の場合には動詞の語尾に s をつけ、これを「三単現の s」と呼びます。s をつけた動詞の語尾は、名詞に「複数形の s」をつける場合と同じで、次のようになります。

① 通常は原形に s をつけます：

likes looks helps … s の発音は **[s]**
gives knows rains … s の発音は **[z]**

② -ch, -sh, -ss, -o などで終わる語は es をつけます：

teaches washes passes … es の発音は **[ɪz]**
does goes … es の発音は **[z]**

③ 「子音字 + y」で終わる語は y を i に変えて -es をつけます：

study → studies carry → carries fly → flies … s の発音は **[z]**

* play, buy など「母音字 + y」で終わる語はそのまま s をつけます。

R9 形容詞と同形の副詞

形容詞から派生した副詞の中には形容詞と同形のものがあります。

	形容詞	副詞		形容詞	副詞
close [kloʊs]	近い	近く	late	遅い	遅く
early	早い	早く	long	長い	長く
enough	十分な	十分に	low	低い	低く
fast	速い	速く	near	近い	近く
far	遠い	遠く	short	短い	短く
hard	一所懸命な	一所懸命に	tight	堅い	堅く
high	高い	高く			

* close, hard, high, late, near, short には -ly を付けて副詞にすることもできますが、全く [かなり] 異なる意味になります：**closely** (綿密に)、**hardly** (ほとんど～ない)、**highly** (とても)、**lately** (最近)、**nearly** (ほぼ)、**shortly** (すぐに)。

R10 動詞のing形の作り方

現在〔過去〕進行形や動名詞、現在分詞を作る場合は動詞をing形にします。

- ① 通常は原形にingをつけます：

going reading cooking studying carrying

- ② -eで終わる語はeを取ってingをつけます：

come → coming make → making

- ③ -ieで終わる語はieをyに変えてingをつけます：

die → dying lie → lying

- ④ 「強勢のある母音字+子音字」は子音字を重ねてingをつけます：

get → getting begin → beginning refer → referring

* 母音字に強勢がない場合は子音字を重ねません(例: offer → offering)。

R11 主な状態動詞

「…する」「…になる」という意味の動詞を「動作動詞」と呼び、「…している」「…である」という意味の動詞を「状態動詞」と呼びます。以下は特によく用いられる「状態動詞」です。「状態動詞」は原則として進行形(現在進行形、過去進行形、現在完了進行形、過去完了進行形)にすることができません。

be動詞	(…だ、ある)	belong	(属している)	exist	(存在する)
have	(持っている)	own	(所有している)	remain	(…のまま)
resemble	(似ている)	agree	(賛成だ)	hear	(聞こえる)
see	(見える)	smell	(においがする)	taste	(味がする)
believe	(思う)	understand	(理解している)	know	(知っている)
like	(好きだ)	love	(愛している)	prefer	(より好む)
remember	(覚えている)	think, believe, suppose	(思う)	hate	(大嫌い)
wish	(願っている)	want	(ほしい)	need	(必要である)

* 但し、「…を繰り返している」という場合は進行形にします。例えば、「変な音が繰り返し聞こえる」はI'm hearing weird noises. とし、「それが繰り返し大好きだ! → 何度食べても〔見ても〕それが大好きだ!」はI'm loving it! とします。

R 12 規則動詞の -ed のつけ方と発音

動詞の原形に -ed をつけて過去形と過去分詞を作る動詞を「規則動詞」と呼び、それ以外の方法で過去形と過去分詞を作る動詞を「不規則動詞」と呼びます。規則動詞に -ed をつける方法は次の通りです。

① 通常は原形に ed をつけます：

look**ed** watch**ed** finish**ed** … ed の発音は [t]
play**ed** answer**ed** … ed の発音は [d]
want**ed** need**ed** … ed の発音は [ɪd]

② -e で終わる語は d だけをつけます：

lik**e**d hop**e**d … d の発音は [t]
liv**e**d clos**e**d … d の発音は [d]

③ 「子音字 + y」で終わる語は y を i に変えて ed をつけます：

stud**y** → stud**i**ed cry → cri**e**d … ed の発音は [d]

* stay, enjoy など「母音字 + y」で終わる語はそのまま ed をつけます。

④ 「強勢のある母音字 + 子音字」の語は子音字を重ねて ed をつけます：

stop → stop**ped** drop → dropp**ed** … ed の発音は [t]
refer → refer**red** occur → occurr**ed** … ed の発音は [d]

* 母音字に強勢がない場合は子音字を重ねません (例: offer → offered)。

R 13 不規則動詞の活用 (<http://basic.linkage-club.com/doshi>)

「不規則動詞」は過去形と過去分詞の形によって4つのタイプに分かれます。

【A-A-A型】(原形 [現在形]、過去形、過去分詞が全て同じもの)

原形 [現在形]	過去形	過去分詞
cost [kɒ(:)st] (負担させる)	cost	cost
cut [kʌt] (切る)	cut	cut
hit [hit] (叩く)	hit	hit
hurt [hɜ:t] (傷つける)	hurt	hurt
let [let] (させる)	let	let

put [pút] (置く)	put	put
quit [kwít] (やめる)	quit	quit
read [ríd] (読む)	read [réd]	read [réd]
*綴りは同じだが、原形と過去形・過去分詞の発音が異なる。		
set [sét] (置く)	set	set
shut [ʃát] (閉じる)	shut	shut

【A-B-A 型】(原形[現在形]と過去分詞が同じもの)

原形 [現在形]	過去形	過去分詞
become [bikám] (なる)	became [bikéim]	become
come [kám] (来る)	came [kéim]	come
run [rán] (走る)	ran [ræn]	run

【A-B-B 型】(過去形と過去分詞が同じもの)

原形 [現在形]	過去形	過去分詞
bring [bríp] (持ってくる)	brought [bró:t]	brought
build [bıld] (建てる)	built [bılt]	built
buy [bái] (買う)	bought [bó:t]	bought
catch [kæ:tʃ] (つかまえる)	caught [kó:t]	caught
feel [fi:] (感じる)	felt [fɛlt]	felt
fight [fáit] (戦う)	fought [fó:t]	fought
find [fáind] (見つける)	found [fáund]	found
have [háev]	had [háed]	had
has [háez]		
hear [hiə] (聞こえる)	heard [há:rd]	heard
hold [hóuld] (持つ、続く)	held [héld]	held
keep [ki:p] (保つ)	kept [képt]	kept
lay [léi] (横たえる)	laid [léid]	laid
lead [li:d] (導く)	led [léd]	led
leave [li:v] (立ち去る)	left [léft]	left
lend [lénd] (貸す)	lent [lént]	lent
lose [lú:z] (なくす)	lost [lós(:)st]	lost
make [méik] (作る)	made [méid]	made
mean [mi:n] (意味する)	meant [mént]	meant
meet [mi:t] (会う)	met [mét]	met

pay	【péi】	(払う)	paid	【péid】	paid
say	【séi】	(言う)	said	【séid】	said
sell	【sél】	(売る)	sold	【sóuld】	sold
send	【sénd】	(送る)	sent	【sént】	sent
shoot	【ʃú:t】	(撃つ)	shot	【ʃát ʃót】	shot
shine	【ʃáin】	(輝く)	shone	【ʃóun ʃón】	shone
sit	【sit】	(座る)	sat	【sæt】	sat
sleep	【slí:p】	(眠る)	slept	【slépt】	slept
spend	【spénd】	(費やす)	spent	【spént】	spent
stand	【sténd】	(立つ)	stood	【stúd】	stood
teach	【ti:tʃ】	(教える)	taught	【tɔ:t】	taught
tell	【tél】	(話す)	told	【tóuld】	told
think	【θɪŋk】	(思う)	thought	【θɔ:t】	thought
understand	【ʌndərstænd】	(理解する)	understood	【ʌndərstúd】	understood
win	【win】	(勝つ)	won	【wɔ:n】	won

【A-B-C型】(原形[現在形]、過去形、過去分詞が全て異なるもの)

原形 [現在形]		過去形	過去分詞
be	is	was	been
	are		
begin	【bɪɡɪn】 (始まる)	began	【bɪɡən】
break	【bréɪk】 (壊す)	broke	【bróuk】
choose	【tʃú:z】 (選ぶ)	chose	【tʃóuz】
do	【dú:] (行う)	did	【dɪd】
does	【dɔ:z】		done
draw	【drɔ:] (描く、引く)	drew	【drú:]
drawn	【drɔ:n】		drawn
drink	【drɪŋk】 (飲む)	drank	【dræŋk】
drunk	【drʌŋk】		drunk
drive	【draɪv】 (運転する)	drove	【dróuv】
driven	【drɪvn】		driven
eat	【i:t】 (食べる)	ate	【éit】
eaten	【i:tn】		eaten
fall	【fɔ:l】 (落ちる)	fell	【fél】
fallen	【fɔ:lən】		fallen
fly	【fláɪ】 (飛ぶ)	flew	【flú:]
flown	【flóun】		flown
forget	【fərgét】 (忘れる)	forgot	【fərgɔt】
			forgotten
get	【gét】 (得る、着く)	got	【gɔt】
			gotten

give	【gɪv】	(与える)	gave	【gə'ɪv】	given	【gɪvɪn】
go	【ɡəʊ】	(行く)	went	【wɛnt】	gone	【ɡɔ:(n) ɡʌn】
grow	【grəʊ】	(成長する)	grew	【grú:]	grown	【grəʊn】
hide	【haɪd】	(隠れる)	hid	【hɪd】	hidden	【hɪdn】
know	【nəʊ】	(知っている)	knew	【nju:]	known	【nəʊn】
lie	【laɪ】	(横たわる)	lay	【leɪ】	lain	【leɪn】
ride	【raɪd】	(乗っていく)	rode	【róud】	ridden	【rɪdn】
rise	【raɪz】	(上がる)	rose	【róuz】	risen	【rɪzn】
see	【si:]	(見える)	saw	【sɔ:]	seen	【si:n】
shake	【ʃeɪk】	(揺れる)	shook	【ʃúk】	shaken	【ʃeɪkən】
show	【ʃəʊ】	(示す)	showed	【ʃəʊd】	shown	【ʃəʊn】
					showed	
sing	【sɪŋ】	(歌う)	sang	【sæŋ】	sung	【sʌŋ】
speak	【spi:k】	(しゃべる)	spoke	【spóuk】	spoken	【spóukən】
steal	【sti:l】	(盗む)	stole	【stóul】	stolen	【stóulən】
swim	【swɪm】	(泳ぐ)	swam	【swæm】	swum	【swʌm】
take	【teɪk】	(取る)	took	【túk】	taken	【téikən】
tear	【téər】	(裂く)	tore	【tɔ:r】	torn	【tɔ:rn】
throw	【θrəʊ】	(投げる)	threw	【θrú:]	thrown	【θrəʊn】
wear	【wéər】	(着ている)	wore	【wɔ:r】	worn	【wɔ:rn】
write	【raɪt】	(書く)	wrote	【róut】	written	【rɪtn】

R 14 自動詞と他動詞の区別 (間違いやすいもの)

① 自動詞と勘違いしやすい「他動詞」

answer	(…に答える)	approach	(…に近づく)
attend	(…に出席する)	consider	(…について考える)
discuss	(…について話す)	enter	(…に入る)
leave	(…を去る)	marry	(…と結婚する)
mention	(…について言及する)	obey	(…に従う)
reach	(…に到着する)	visit	(…を訪問する)

* answer to、discuss about のように目的語の前に前置詞を置いてはいけません。

② 他動詞と勘違いしやすい「自動詞」

agree (同意する)	apologize (謝罪する)
arrive (到着する)	listen (耳を傾ける)
reply (返答する)	talk (話す)
think (考える)	wait (待つ)

* 目的語をとる場合は、agree with、reply to のように前置詞が必要です。

R15 第2文型「…になる」の動詞と補語

「…になる」という意味は、become、get、be 動詞で表すのが一般的ですが、go、turn、fall、come を用いることもあります。これら4つの動詞の補語は限られており、たいてい次のような形で用います。

go (悪くなる、離れていく、過ぎていく)	
go bad/sour/grey	(腐る/酸っぱくなる/灰色になる)
go wild/crazy/mad	(狂乱する)
go bald/blind/deaf	(禿げる/失明する/耳が聞こえなくなる)
go free/independent	(自由の身になる/独立する)
go unnoticed	(気づかれずに済む)
turn (色・年齢が変わる、転身する)	
turn red/pale	(赤に変わる/真っ青になる)
turn 18	(18歳になる)
turn a teacher	(転職して) 教師になる)
fall (おちいる、突然 [急] になる)	
fall asleep/silent	(眠りに入る/静まりかえる)
fall sick [ill]	((急に) 病気になる)
fall in love	(恋をする)
come (実現する、分解する)	
come true	(実現する)
come apart/loose	(ばらばらになる/ゆるむ)
come undone/unstuck	(ほどける/はがれる)

R 16 「他動詞＋副詞」の動詞句

他動詞＋ on	
try ... on (…を試着する)	put ... on (…を身につける)
have ... on (…を身につけている)	turn ... on (…を点ける)
他動詞＋ off	
take ... off (…を脱ぐ)	drop ... off (…を車から降ろす)
put ... off (…を先に延ばす)	turn ... off (…を消す)
他動詞＋ up	
pick ... up (…を拾い上げる)	give ... up (…をあきらめる)
wake ... up (…を起こす)	look ... up (…を調べる)
turn ... up (…の音量を上げる)	call ... up (…に電話をかける)
他動詞＋ down	
write ... down (…を書き留める)	turn ... down (…の音量を下げる)
他動詞＋ out	
put ... out (<火>を消す)	carry ... out (…を実行する)
figure ... out (…がわかる)	
他動詞＋ away	
give ... away (…を手放す)	throw ... away (…を捨てる)
put ... away (…を片づける)	take ... away (…を持ち去る)
他動詞＋ back	
call ... back (…に折り返し電話をする)	get ... back (…を取り戻す)

R 17 確信の程度を表す副詞

certainly, surely	(確実に、きっと)
probably	(おそらく、たぶん)
perhaps, maybe	(もしかすると、5分5分で)
possibly	(ひょっとすると)
never	(決して…ない)

高



低

R 18 活用に注意すべき不規則動詞

原形	過去形	過去分詞
rise 【ráiz】 ((自) 上がる	rose 【róuz】	risen 【rizn】
raise 【réiz】 ((他) …を上げる	raised 【réizd】	raised 【réizd】
lie 【láiz】 ((自) 横になる	lay 【léi】	lain 【léin】
lay 【léi】 ((他) …を横たえる	laid 【léid】	laid
lie 【láiz】 ((自) 嘘をつく	lied 【láid】	lied
find 【fáind】 ((他) …を見つける	found 【fáund】	found
found 【fáund】 ((他) …を設立する	founded 【fáundid】	founded
fly 【flái】 ((自) 飛ぶ	flew 【flú:]	flown 【flóun】
flow 【flóu】 ((自) 流れる	flowed 【flóud】	flowed

* ((自)) は自動詞、((他)) は他動詞です。

R 19 米語と英語の綴りの違い

同じ単語でも、アメリカ英語 ((米)) とイギリス英語 ((英)) では、次のように綴りが異なる場合があります。

違い	米語	英語	
((米)) -or ((英)) -our	color	colour	色
	favorite	favourite	一番好きな
((米)) -er ((英)) -re	center	centre	真ん中
	theater	theatre	劇場
((米)) -ze ((英)) -se	realize	realise	…を認識する
	recognize	recognise	…だとわかる
((米)) I ((英)) II	traveling	travelling	旅行すること
	traveled	travelled	旅行した
その他	check	cheque	小切手
	tire	tyre	タイヤ
	toward	towards	…に向かって

R 20 主な名詞節

(that) S + V ...	SはV...だということ
if S + V ...	SはV...かどうか
whether S + V ...	SはV...かどうか
when S + V ...	いつSはV...か
where S + V ...	どこでSはV...か
who + V ...	誰がV...か
who S + V	Sは誰をVか
how S + V ...	どのようにしてSはV...か
why S + V ...	なぜSはV...か
what + V ...	何がVかVすること [もの]
what S + V	Sは何をVするかSがVすること [もの]
what S + is [am, are]	Sは(現在)何であるか / 現在のS
what S + was [were]	Sは(過去に)何であったか / 過去のS
whatever (S) + V	(Sが) Vするもの [こと] は何でも
whoever (S) + V	(Sが) Vする人は誰でも

R 21 目的語に that 節をとる主な動詞

say (that) ~	(~だと言う)	hear (that) ~	(~だと聞いている)
know (that) ~	(~だと知っている)	think (that) ~	(~だと思)
believe (that) ~	(~だと思)	guess (that) ~	(~だと思)
feel (that) ~	(~だと感じる)	teach (that) ~	(~だと教える)
hope (that) ~	(~を望む)	find (that) ~	(~だとわかる)
suggest (that) ~	(~だと示唆する)	argue (that) ~	(~だと主張する)
show (that) ~	(~だと示す)	mean (that) ~	(~を意味する)
state (that) ~	(~だと述べる)	explain (that) ~	(~だと説明する)
note (that) ~	(~に注意する)	tell ... (that) ~	(...に~だと言う)
warn ... (that) ~	(...に~だと警告する)	promise ... (that) ~	(...に~だと約束する)

R 22 「前置詞＋関係代名詞」の例

in which	(その中で[中に])
on which	(その上で[上に]) (それに関して)
at which	(その地点で) (それを対象に)
for which	(そのために) (それと引き替えに)
with which	(それと一緒に) (それを用いて)
without which	(それなしに)
by which	(それによって)
about which	(それについて)
under which	(その下で)
during which	(その間に)
after which	(その後に)
with whom	(その人と一緒に)
for whom	(その人のために)
about whom	(その人について)
to whom	(その人に[人へ])
on whom	(その人に(依存して))
against whom	(その人に対して)

R 23 副詞を置く位置

動詞(句)や文を修飾する副詞の位置は、大きく分けて次の3つ(●の部分)です。

(A) 文頭	● 主語 動詞 …
	主語 be 動詞 ● …
(B) 中位	主語 ● 一般動詞 …
	主語 助動詞 ● 動詞 …
(C) 文末	主語 動詞 (目的語・補語) ●

(A)の「文頭」は文全体を修飾したり、副詞を強調[対比]したりする場合だけで、通常は(C)の「文末」か(B)の「中位」に置きます。「文末」に置くか「中位」に置くかについての目安は次の通りです。

【文末に置く場合】

- ① now, today, last month, for ten days のような「時」や「期間」を表す副詞は原則として「文末」に置きます。soon と yet は「文末」が原則ですが、「中位」も可能です：

I met him last month.

「先月彼に会いました」

We will soon make a brief stop at Nagoya.

「まもなく名古屋(駅)で少しの間停車します」

- * 但し、強調や対比のために「文頭」に置かれることがあります：

I'm busy today. Tomorrow I'll be free.

「今日は忙しいんだ。明日なら暇なんだけど」(◆ Tomorrow を today と対比)

- ② here, there, outside, in Tokyo のような「場所」を表す副詞は原則として「文末」に置きます：

I was born in Osaka and went to school there.

「私は大阪で生まれてそこで学校に通いました」

It's getting dark outside.

「外がだんだん暗くなってきた」

- ③ hard, well, fast のような「様態」を表す副詞は原則として「文末」に置きます：

It was raining hard.

「雨が激しく降っていました」

- * 文末に複数の副詞を置く場合には一般に「③(様態)→②(場所)→①(時)」の順にしますが、②と①の順番は厳密ではなく、②が①と比べて長い場合は「①→②」の順番にします：

He came here yesterday.

「彼は昨日ここに来ました」(②→①)

I met him in Tokyo last month.

「私は先月東京で彼に会いました」(②→①)

Kids grow up fast these days.

「近頃、子供は早熟です」(③→①)

It rained hard here yesterday.

「昨日ここでは激しい雨が降りました」(③→②→①)

My bike was stolen last week. But it was found soon in the park.

「先週私の自転車は盗まれましたが、すぐに公園で見つかりました」

(①→②：②が①より長い)

【中位に置く場合】

- ① **already, just, still, ever** のような時間的関係を表すものは原則として「中位」に置きます。

I've already told him.

「彼にはすでに話しました」

Have you ever been to Italy?

「イタリアに行ったことはありますか？」

- ② **always, often, sometimes, seldom, never** のような「頻度(=回数)」を表す副詞は原則として「中位」に置きます：

You should always wear a seatbelt.

「常にシートベルトを着用すべきです」

【文末か中位に置く場合】

「形容詞 -ly」の副詞の大部分(=動詞の「様態」などを表すもの)は原則として「文末」か「中位」に置きます：

They solved the problem quickly.

「彼らはその問題を素早く解決した」

We will carefully consider your request.

「私達はあなたの要望を慎重に検討します」

- * 但し、completely (完全に)、greatly (とても)、hardly (ほとんど…ない) のような「程度の大きさ」を表す副詞は原則として「中位」に置きます：

I completely forgot about it.

「それについては完全に忘れていました」

I hardly care what happens now.

「今さら何が起きようと知ったことではない」

* また、文を修飾する場合はたいてい「文頭」に置きます：

Luckily no one was hurt. (= It was lucky that no one was hurt.)

「幸運にもけがした人は一人もいなかった」

R24 形容詞と副詞の比較変化

形容詞や副詞の「比較級」は語尾に er をつけ、「最上級」は語尾に est をつけます（但し、動詞の活用と同じく、語尾によって語形が異なります）。また、比較級に more を、最上級に most を付ける語や、不規則に変化する語もあります。

① 通常は原級に er（比較級）、est（最上級）をつけます：

原級	比較級	最上級
old	older	oldest
hard	harder	hardest

② 原級が -e で終わる語は r（比較級）、st（最上級）だけをつけます：

原級	比較級	最上級
large	larger	largest
nice	nicer	nicest

③ 「子音字 + y」で終わる語は y を i に変えて er、est をつけます：

原級	比較級	最上級
early	earlier	earliest
happy	happier	happiest

④ 「短母音 + 子音字」で終わる語は子音字を重ねて er、est をつけます：

原級	比較級	最上級
big	bigger	biggest
hot	hotter	hottest

但し、次の場合は原形の前に more (比較級)、most (最上級) をつけます。

① 3音節以上の長い語：

原級	比較級	最上級
beautiful	more beautiful	most beautiful

*音節に関しては「音節について」(R2) を参照。

② -ful, -ous, -ish, -ive, -lessなどで終わる語：

原級	比較級	最上級
famous	more famous	most famous
useful	more useful	most useful

③ 「形容詞 + ly」の形の副詞：

原級	比較級	最上級
quickly	more quickly	most quickly
slowly	more slowly	most slowly

④ 過去分詞や現在分詞が形容詞になったもの：

原級	比較級	最上級
exciting	more exciting	most exciting
excited	more excited	most excited

R 25 基数と序数の表し方

「1つ、2つ、3つ」と個数を表す数を「基数」と呼び、「1番目、2番目、3番目」と順序を表す数を「序数」と呼びます。序数は1から3までは特殊な形にしますが、それ以外は「基数 + th」で表します。

	基数	序数 (…番目)	序数の略語
1	one	first	1st
2	two	second	2nd
3	three	third	3rd
4	four	fourth	4th
5	five	fifth	5th
6	six	sixth	6th

7	seven	seventh	7th
8	eight	eighth	8th
9	nine	ninth	9th
* 序数では nine の -e を省く点に注意			
10	ten	tenth	10th
11	eleven	eleventh	11th
12	twelve	twelfth	12th
* 序数では twelve の -ve が f に変わる点に注意			
13	thirteen	thirteenth	13th
14	fourteen	fourteenth	14th
15	fifteen	fifteenth	15th
16	sixteen	sixteenth	16th
17	seventeen	seventeenth	17th
18	eighteen	eighteenth	18th
19	nineteen	nineteenth	19th
20	twenty	twentieth	20th
* 基数が -ty になる場合は序数を -tieth にする			
21	twenty-one	twenty-first	21st
22	twenty-two	twenty-second	22nd
23	twenty-three	twenty-third	23rd
30	thirty	thirtieth	30th
* 基数が -ty になる場合は序数を -tieth にする			
40	forty	fortieth	40th
* <u>four</u> ty, <u>four</u> tieth と u をつけないように注意			
50	fifty	fiftieth	50th
60	sixty	sixtieth	60th
70	seventy	seventieth	70th
80	eighty	eightieth	80th
90	ninety	ninetieth	90th
100	one hundred	one hundredth	100th
221	two hundred (and) twenty-one	two hundred (and) twenty-first	221st
1000	one thousand	one thousandth	1000th

R26 分数の表し方

先に「分子」の数字、次に「分母」となります。「分母」の数字は原則として序数(R25)を用います。分母の数字は、分子が2以上の場合は「複数形」にします。分子が基数(one, two, three, etc.)の場合はハイフンをつけますが、無くてもかまいません(例: one-half、one half、two-thirds、two thirds)。

1/2 (2分の1)	a half one-half	* secondを用いると「1秒」と誤解される。
1/3 (3分の1)	a third one-third	
2/3 (3分の2)	two-thirds	
1/4 (4分の1)	a quarter one-quarter	a fourth one-fourth
2/4 (4分の2)	two-quarters	two-fourths
3/4 (4分の3)	three-quarters	three-fourths
1/5 (5分の1)	a fifth one-fifth	
2/5 (5分の2)	two-fifths	
3/5 (5分の3)	three-fifths	
4/5 (5分の4)	four-fifths	
1/10 (10分の1)	a tenth one-tenth	
3/10 (10分の3)	three-tenths	
1/12 (12分の1)	a twelfth one-twelfth	
3/25 (25分の3)	three twenty-fifths	* threeの後ろにハイフンを置くとわかりづらい。
1/100 (100分の1)	a hundredth one-hundredth	
3/100 (100分の3)	three-hundredths	
1/1,000 (1,000分の1)	a thousandth one-thousandth	